

第一回不妊治療等に係る当事者ヒアリング概要

第一回不妊治療等に係る当事者ヒアリングにおける各参加者の発言の要点は以下のとおり。

① NPO 法人 Fine 小宮町子さん

- ・不妊治療を始める前に、生みたいのか、育てたいのかを問うことが肝要。
- ・不妊治療の辞め時の判断は難しく、辞め時を相談できる場があると良い。
- ・不妊治療の始めから、特別養子縁組や里親を紹介して欲しかった。
- ・子どもを望むカップルに本当に必要な支援は冷静な判断ができる情報や伴走者であり、不妊専門相談センターがその役割を果たすことができるのではないかと。

② NPO 法人 フィンレージの会 鈴木良子さん

- ・不妊の悩みは重層的で、外圧（社会環境的側面）と内圧（心理的側面）、さらに治療そのもので当事者は苦しんでいる。そんな中、当事者同士の交流が最も助けとなった。
- ・不妊専門相談センターのあり方については検討の余地があるのでは。
- ・プレコンセプションケアも大事である、包括的な性と生殖に関する取組が必要。
- ・「自分たちで考え、自分たちで選択するための」情報提供を行う不妊治療等に関する総合情報サイトが必要。

③ 中日新聞 川田篤志さん

- ・不妊症の原因の半分は男性側にあるということを発信してほしい。また、加齢とともに、精子も劣化することを認識してほしい。一度の検査で安心してはいけない。
- ・不妊というどうしても女性の問題と思われがちで、女性がパートナーに精子検査を勧めづらいという想いがある。
- ・男性不妊は、当事者が集まる場がなく、ピアサポートの仕組みが必要。

④ マダネプロジェクト くどうみやこさん

- ・子どものいない理由や事情は千差万別。
- ・不妊治療を行っても、結果子どもを授けられないことで心身の変化が起きうる。子どもを授けられなかった方々の中には産めなかったことに起因して、鬱のような症状がでることもある。そうならないためにも不妊治療の前も途中も、様々な選択肢を呈示する必要あり。
- ・子どもの居ない人生を選択した女性の想いの共有・悩みの相談を行える場の整備をする必要がある。
- ・子どもの居ない人生を選択した方々に向けて、老後の生活設計等について考えて貰う講演会など、寄り添ったサポートが必要。